

龍海院「前橋城絵図」の記載情報について

関 口 荘 右¹⁾・黒 澤 照 弘²⁾

¹⁾群馬県立文書館古文書係・²⁾群馬県教育委員会文化財保護課

はじめに

1. 龍海院「前橋城絵図」の伝来と作成年代について

2. 龍海院「前橋城絵図」の記載内容について

(1)本丸・三階櫓(天守)、二の丸 (2)三の丸

(3)高浜曲輪 (4)廻曲輪・鼠曲輪

(5)下条曲輪

(6)高浜曲輪北側の酒井淡路屋敷・御前栽場

(7)三の丸北側の小曲輪 (8)土居曲輪

(9)水曲輪(加内曲輪) (10)嶋田曲輪、伯耆曲輪

(11)嶋田曲輪北側堀と広瀬川間、凡例・龍海院

結びにかえて

— 要 旨 —

本稿は、龍海院「前橋城絵図」の城郭全体・各曲輪(廓)部分の画像を掲載し、併せて藩士名・屋敷地面積・各曲輪入口の城門などについての文字情報等を翻刻し、当該絵図の史料的価値をより明らかにするとともに、前橋城や前橋藩政などの研究の一助にすることを目的とする。

当該絵図は、昭和42年(1967)に酒井家末裔の酒井忠正氏から龍海院へ寄贈された絵図数点のうちの1点であり、平成11年(1999)当館に寄託されたものである。また、作成年代については、諸点から近世前橋藩、酒井氏藩政時代の元禄年間初期かそれ以前の作成と考えられる。

絵図には、本丸三階櫓を始めとする各櫓、城門、堀、橋、藩士屋敷割り、利根川・広瀬川・風呂川、城下への用水口、などが詳細に描かれている。また、全面に彩色が施され、小路(雌黄色)、土居(緑青色)、堀・川(藍蝶色)、屋敷境(墨筋黒色)などと色分けされている。

今後の課題としては、他の前橋城絵図との比較・検証、これまでの前橋城発掘による考古学的成果との総合的な検証などがあげられる。

キーワード

対象時代 江戸時代中期(元禄年間初期ころ)

対象地域 群馬県前橋市

研究対象 近世城郭絵図

はじめに

前橋市紅雲町・龍海院所蔵文書「前橋城絵図」(P9902 No.1)¹⁾とは、平成11年(1999)4月15日に、県立文書館職員2名が、曹洞宗大珠山是字龍海院(当時過外一雄住職)で調査、当館へ搬入し、その後同寺院から寄託された絵図である(年次不詳)。当時は、この絵図に続き龍海院所蔵の他の文書類についても、檀徒総代等に相談の上寄託される予定であったが、現在当館に寄託されている文書は、この「前橋城絵図」1点のみである。

龍海院は、近世前半期に上野国前橋藩主であった酒井家の菩提寺である。初代藩主酒井重忠の前橋転封に伴い、川越から移された。当初、寺は現在の前橋市岩神町付近にあったが、元禄期に現在地へ移されたという(同寺伝承)。当該絵図は、点検後に破損の恐れから「マイクロ閲覧」で公開してきた。その後、平成24年11月、当館の開館30周年記念特別展(原寸大写真パネル)と2日間の実物展示会(原本)の際に公開した。

この龍海院「前橋城絵図」についての論稿は、『前橋市史 第二巻』²⁾、『前橋市史 第三巻』³⁾、「文書館だより 第50号」の表紙解説(筆者執筆)⁴⁾などがある。しかし、当該絵図の詳細部分(撮影画像)と記載情報(藩士名・屋敷地面積、櫓・門・堀などの建造物など)について、同時に掲載し、詳述した論稿は見当たらない。よって、本稿では、龍海院「前橋城絵図」の城郭全体・各曲輪(廓)部分の画像を掲載し、併せて藩士名・屋敷地面積・各曲輪入口の城門などについての文字情報等を翻刻し、当該絵図の史料的価値をより明らかにするとともに、前橋城や前橋藩政などの研究の一助にしたいと考える。

1. 龍海院「前橋城絵図」の伝来と作成年代について

この絵図の伝来について、「龍海院所蔵文書等調査報告」⁵⁾によると、当該絵図は、昭和42年(1967)に酒井家末裔の酒井忠正氏(東京都在住)から龍海院へ寄贈された絵図数点のうちの1点である。その後、昭和50年の同寺屋根修復工事に際し、損傷の恐れから当該絵図を除き全ての絵図が前橋市に寄贈(売却)され、前橋市立図書館に収蔵された。⁶⁾さらに、前記のような経緯で平成11年4月に当館が調査・収集したものである。

当館搬入時の当該絵図の状態については、縦204cm×横198cmで、絵図全体の状態は良いが、白壁の上から緑色の顔料を塗った部分が破損し、「放置しておくと今後破損の恐れがある」と指摘している。現在も同様の状態である。

絵図の作成年代については、記載がなく不明である。しかし、①絵図記載の藩士名から、5代藩主忠挙の代(天和元年(1681)～宝永4年(1707))と推定されるごと、②絵図に描かれている龍海院が、元禄年間に城北側

の岩神から城南側の現在地に移転したとされること、③城の縄張り・形状(本丸・二の丸等の形状や高浜曲輪が利根川によって浸食されていないこと)、④利根川の流路(本丸西側の川原のふくらみ)⁷⁾、⑤元禄4年(1691)城内創設の藩校好古堂が描かれてないこと⁸⁾などから、天和元年から元禄4年の間の作成と推定される。

2. 龍海院「前橋城絵図」の記載内容について

当該絵図には、本丸三階櫓を初めとする各櫓、城門(入口)、堀(長さ)、橋、藩士屋敷割り(藩士名・屋敷面積)、利根川・広瀬川・風呂川、城下への用水口、などが詳細に描かれている。また、全面に彩色が施され、小路は雌黃色、土居(土塁)は緑青色、堀・川は藍蝶色、屋敷境は黒色(墨筋)などで描かれている。緑青色の土塁上に数多の白壁の櫓・堀などが描かれた姿は、「関東の華」と呼ばれるのにふさわしい城であったといえよう。以下、各曲輪ごとに描写情報の概略を記すが、各曲輪の画像と文字情報の翻刻については、本文の後にまとめて記載することとする。

(1) 本丸・三階櫓(天守)、二の丸(〔絵図1・2・3〕)

本丸は、城郭の西端、西側が利根川に面している。南端に三階櫓(天守)が築かれ、その屋根は瓦葺き、台は石垣である。西側に3基の隅櫓(台は石垣)がある。周囲は、白壁の堀が築かれ廻らされている。

本丸をコの字で囲むように二の丸がある。南・北側は水堀で本丸と隔てられているが、東側の南北に細長い区域は、白壁の堀で本丸と隔てられているのみである。南面東寄りに二の門(二の丸門)があり、南西に隅櫓が1基ある。

(2) 三の丸(〔絵図4〕)

三の丸は、東西南北それぞれに1基ずつの城門がある。白壁の堀は、東・南・北面に築かれ、周囲を水堀が廻っている。内部は、高須・本多・川合という家老格藩士などの屋敷8軒と御長屋(藩主帰城時の御供の宿泊所)がある。約100年間の廃城(陣屋支配)期を経て、慶応3年(1867)完成の「再築前橋城」は、ここを本丸とし築かれた。

(3) 高浜曲輪(〔絵図5〕)

高浜曲輪は、二の丸の北側に水堀を隔てて築かれ、酒井弾正の屋敷があったので、「北の丸」や「弾正屋敷」とも呼ばれた。北西と南東に隅櫓が1基ずつあるが、このうち北西の隅櫓はこの後の利根川の洪水等により、城内の建造物で最も早く崩壊し失われたと考えられる。

(4) 麋曲輪・鼠曲輪(〔絵図6〕)

麋曲輪は、水堀を隔てて二の丸の南側にあった。南・東・西側に白壁の堀を廻らし、北東と南東に小城門があった。このうち、南東城門の内側に小規模な建物が描かれている。

鼠曲輪には、川合惣兵衛の屋敷と「御修覆賄小屋」があった。南側に門があり、門外の道は下条曲輪に続いていた。

(5) 下条曲輪（柿之宮曲輪）（[絵図7・8・9]）

下条曲輪は、前橋城の最南部に位置し、3区域（西・東・南側の小廓）に分かれている。このうち、南側小廓の南面と「御塩硝藏」東側に白壁の堀が築かれている。また、南側小廓の東側と「御塩硝藏」東側に城門が築かれている。

(6) 高浜曲輪北側の酒井淡路屋敷・御前栽場（[絵図10]）

高浜曲輪と水堀を隔てた北側には、酒井淡路らの屋敷と御前栽場（植栽や築山のある庭園）があった。しかし、この後の利根川の洪水により、その多くが失われた。

(7) 三の丸北側の小曲輪（[絵図11]）

三の丸北門から続くこの小曲輪には、酒井兵庫、松下七太夫らの屋敷があった。

(8) 土居曲輪（外曲輪）（[絵図12・13・14・15・16]）

土居曲輪は、水堀を隔てて三の丸の北東側に位置する最も広い曲輪である。よって、最も多くの藩士名・屋敷面積が記され、本稿後掲の絵図画像の翻刻も5枚にわたっている。北東面に柳原口（門）、東面に嶋田曲輪に出る門、南東面に比較的大きい車橋門などがある。

白壁の堀について、北側は柳原口まで描かれている。しかし、①柳原口東から嶋田曲輪へ出る城門との間、②①の城門と南東面の隅櫓との間、③南東部の車橋門と南面の水曲輪出口との間は、当初白壁が描かれた上に緑青が塗られ、土墨に変えられた形跡がある（東側に損傷あり）。このようになぜ塗りかえられたのか、原因究明が必要である。

(9) 水曲輪（加内曲輪）（[絵図16・17]）

水曲輪は、水堀を隔てて土居曲輪の北東側に位置し、特に車橋門と水曲輪口（門）の間の小路両側には多くの藩士屋敷がある。この曲輪南面の水曲輪門両側も土居曲輪と同様に白壁が緑青に塗りかえられ、損傷がみられる。

(10) 嶋田曲輪、伯耆曲輪（[絵図17・18]）

嶋田曲輪は、水堀を隔てて加内曲輪の東側に位置する。北側に坪呂岩口（門）、南側に大手門があり、1軒の屋敷面積が比較的広い。この2門の両脇以外の白壁堀部分も緑青色で塗られ、亀裂などの損傷がみられる。

伯耆曲輪は、水堀を隔てて嶋田曲輪の南側に位置する。藩士屋敷地と勘定所があり、北東部に大手口がある。

(11) 嶋田曲輪北側堀と広瀬川間、凡例・龍海院（[絵図19・20・21]）

嶋田曲輪北側堀と「廣瀬川」の間にも、多数の藩士屋敷が配されている。また、凡例は絵図の右下部分（南東方向）に、龍海院は真下（南方向）に描かれている。

結びにかえて

以上、龍海院「前橋城絵図」の記載情報について、概略を記した。前橋市立図書館所蔵の作成年代が明らかな寛文6年（1666）～享保2年（1717）の前橋城絵図は6点ある。それらと比較して龍海院「前橋城絵図」は、近似する1点を除いて文字・絵図情報量がはるかに多く、色鮮やかである。

今後の課題としては、第一に、龍海院に同時に寄贈され、その後前橋市立図書館に収蔵された数点の絵図との比較・検証があげられる。特に、当該絵図と近似する「前橋城図」（K サカイ-1-9）との比較・検証は早急に実施したい。第二に、当館収蔵の全ての前橋城絵図について整理し検証することである。第三に、当館や前橋市立図書館に収蔵されている全ての前橋城絵図の統一的な整理や編年作業である。第四に、当初白壁の堀が描かれた上に、後に緑青で上塗りし堀を短くしている点の究明である。第五に、県教委・前橋市教委・（公財）県埋蔵文化財調査事業団などによるこれまでの考古学的成果との総合的な検証である。これらの検証作業は、当該絵図の作成年代の絞り込みや特定、その他の絵図の検証などが進み、前橋城の研究は勿論、近世前橋藩の研究等に大きく寄与するものと思われる。

【註】

- 1) 「P 9902 No 1」は県立文書館の請求番号と文書番号。
- 2) 『前橋市史』第二巻（前橋市史編さん委員会、1973年8月）
P1338～ 第五章近世の城郭 第一節前橋城
- 3) 『前橋市史』第三巻（前橋市史編さん委員会、1975年10月）
P1147～ 第10章家臣の住居 第一節家臣住居の配置 1酒井氏時代
- 4) 「文書館だより」第50号（群馬県立文書館、2013年3月）
閑口執筆表紙解説
- 5) 平成11年（1999）4月15日、県立文書館の新井・佐藤による
調査・搬入時の記録。
- 6) 前橋市立図書館所蔵の前橋城絵図のうち、分類番号が「K サカイ-1-0」となっている計7点などがこれに該当すると思われる。
- 7) 利根川の流路について、元禄12年（1699）・同14年・同15年・宝永3年（1706）と立て続けに利根川の洪水が発生した。その後、宝永・正徳期にかけて前橋藩は堤防や利根川流路変更工事を幕府に申請したが、その際の絵図が何点か残されている。これらの絵図の利根川流路は、当該絵図の流路と異なり、後の姿と考えられる。
- 8) 藩校好古堂の位置について、同校は18世紀半ばの酒井氏姫路転封直前期の絵図では、三の丸北側の堀を隔てた土居曲輪側の一角に描かれている。記録では、元禄4年の同校創設時は三の丸にあったとされるが、その後記の場所に独立して建設された、とも考えられる。また、絵図作成時には、三の丸のいづれかの建物内に同校が設けられ、絵図には明記されなかった可能性もある。

《主な参考文献》

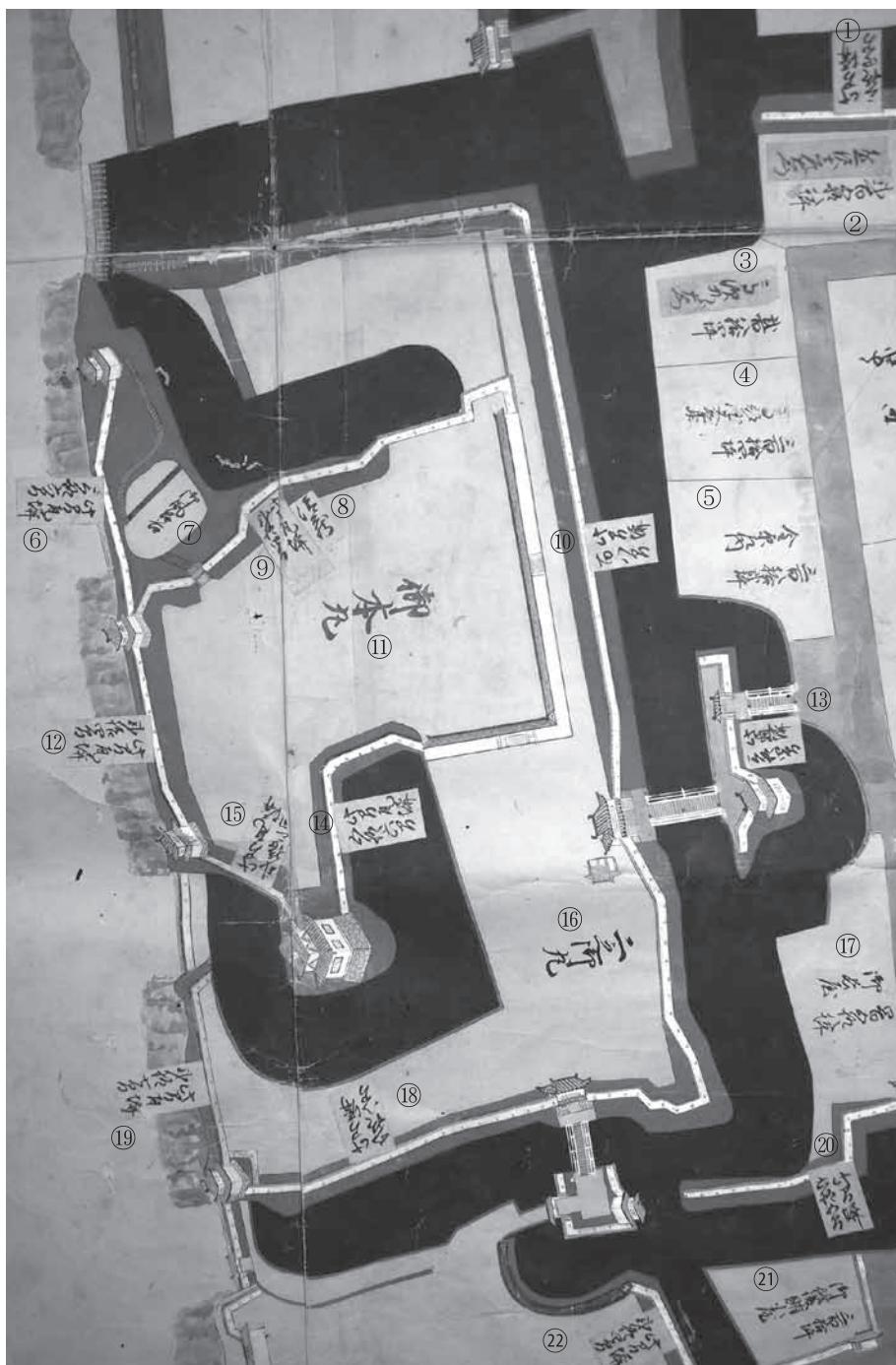
- ・『前橋市史』第二巻（前橋市史編さん委員会、1973年）・『前橋市史』第三巻（前橋市史編さん委員会、1975年）
- ・『上州の諸藩（下）』（上毛新聞社、1982年）
- ・『藩史大辞典 第2巻 関東編』（雄山閣出版、1989年）
- ・『群馬県史』通史編4 近世1政治（群馬県、1990年）

龍海院「前橋城絵図」各曲輪の画像と文字情報の翻刻（[絵図 1～21]）

〔絵図1〕 龍海院「前橋城絵図」（城郭全体、P9902 No.1、縦204cm×横198cm）

① 北





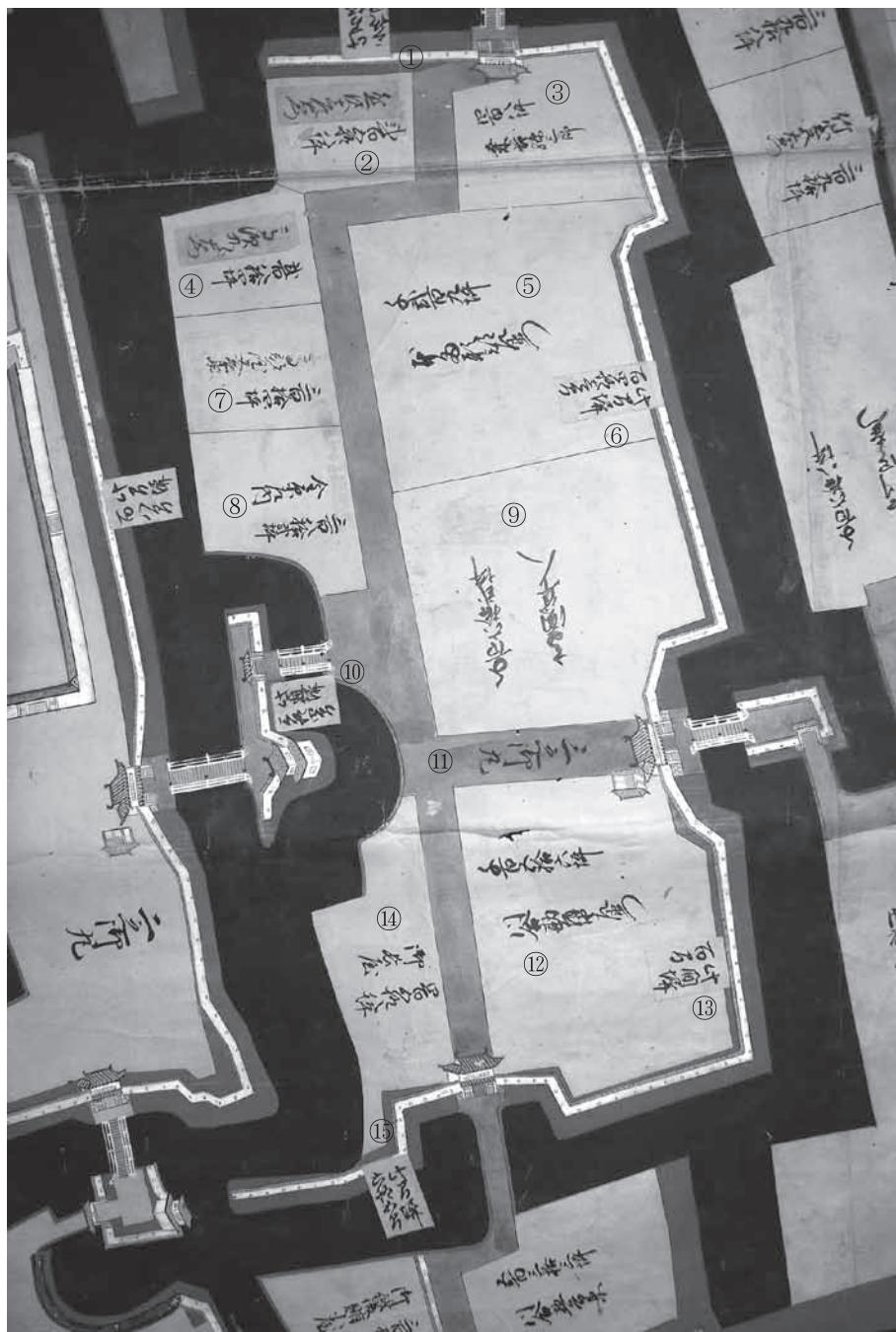
〔絵図2〕
本丸（三階櫓）・二の丸・
三の丸（西側一部）

- ①此間堀34間
- ②熊沢彦右衛門 258坪
- ③高須九郎右衛門 284坪
- ④高部屋又兵衛 314坪
- ⑤金原左内 382坪
- ⑥此間瓦堀36間
- ⑦御風呂谷
- ⑧清蔵
- ⑨此間瓦堀24間
- ⑩此間堀108間
- ⑪御本丸
- ⑫此間瓦堀24間
- ⑬此通堀34間
- ⑭此間瓦堀56間
- ⑮此間瓦堀23間
- ⑯二之御丸
- ⑰御長屋 458坪
- ⑱此間瓦堀58間
- ⑲此間瓦堀27間
- ⑳此間堀65間
- ㉑御修覆賄小屋 310坪
- ㉒此間瓦堀24間



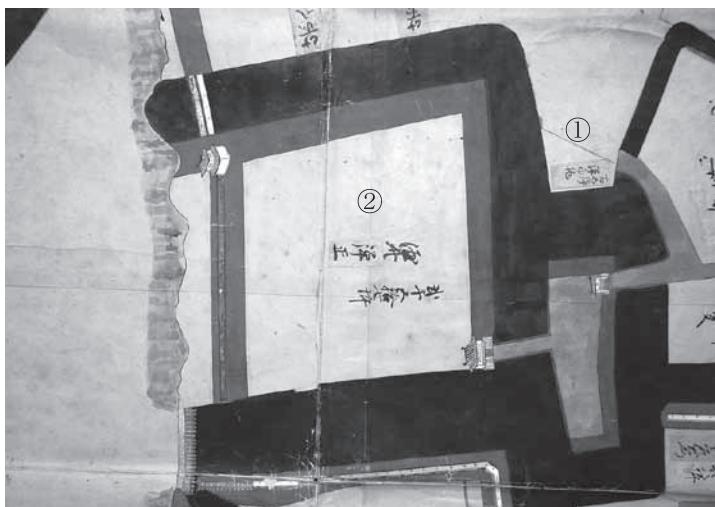
〔絵図3〕
本丸南側三階櫓（東・西・南側は水堀）





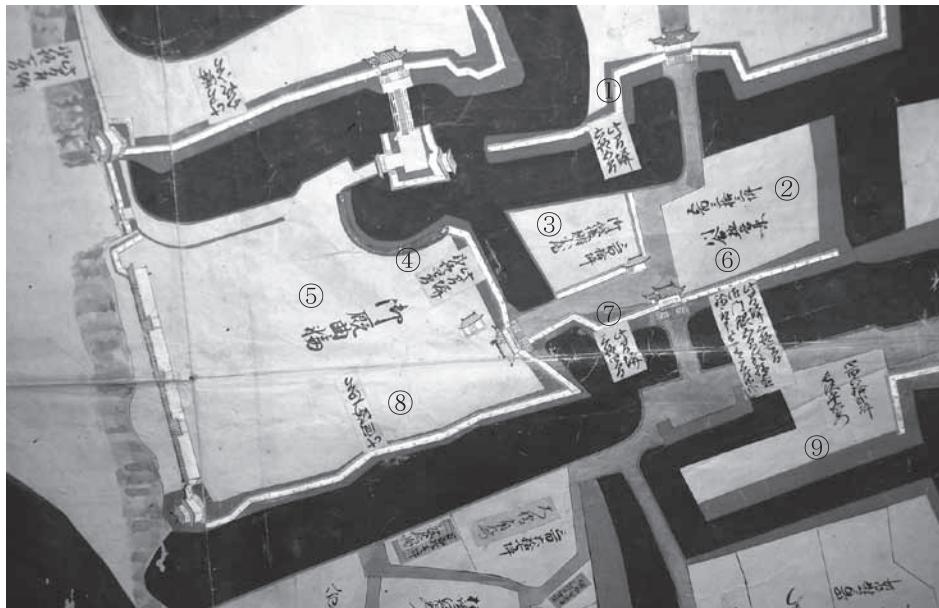
〔絵図4〕三の丸

- ①此間塀34間
- ②熊沢彦右衛門 258坪
- ③棄谷孫三郎 408坪
- ④高須九郎右衛門 284坪
- ⑤本多刑部左衛門 1209坪
- ⑥此間塀141間
- ⑦高部屋又兵衛 314坪
- ⑧金原左内 382坪
- ⑨高須隼人 1162坪
- ⑩此通塀34間
- ⑪三之御丸
- ⑫川合勘解由左衛門 1156坪
- ⑬此間塀100間
- ⑭御長屋 458坪
- ⑮此間塀65間



〔絵図5〕高浜曲輪

- ①弾正抱 105坪
- ②酒井弾正 2057坪



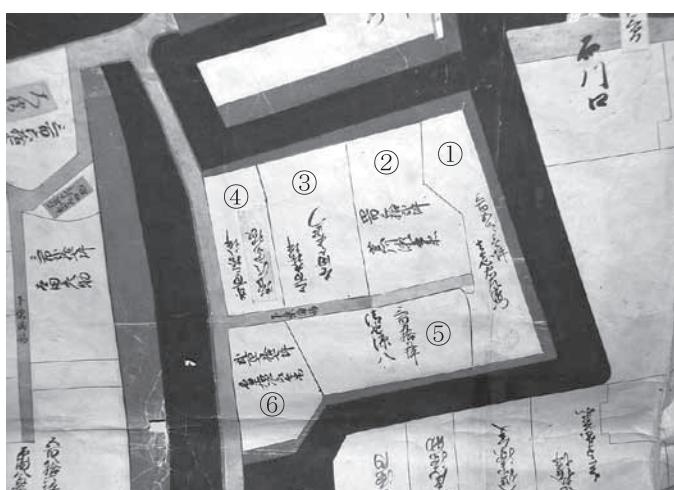
〔絵図6〕廐曲輪ほか

- ①此間塀65間
- ②川合惣兵衛 533坪
- ③御修覆賄小屋 310坪
- ④此間塀24間
- ⑤御廐曲輪
- ⑥此間塀37間御門脇5間程
捨置残取申にてこれ有る
べく御座候哉
- ⑦此間塀34間
- ⑧此間塀100間
- ⑨長沢平右衛門 462坪



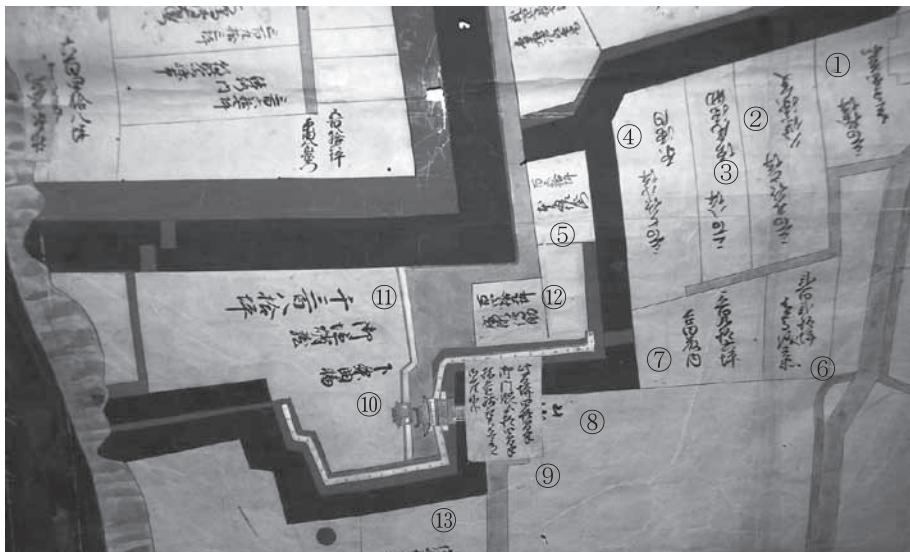
〔絵図7〕下条曲輪西側

- ①大橋角左衛門 367坪
- ②角左衛門抱 121坪
- ③太田彦助抱 65坪
- ④太田彦助 327坪
- ⑤松崎郷右衛門 357坪
- ⑥和田十右衛門 393坪
- ⑦大橋伝右衛門 393坪
- ⑧淡路内朝比奈孫市 367坪
- ⑨川端助内 866坪
- ⑩神原庄右衛門 648坪
- ⑪原田八郎右衛門 586坪
- ⑫本多佐左衛門 150坪



〔絵図8〕下条曲輪東側

- ①真志忠左衛門 351坪
- ②荒川瀬兵衛 432坪
- ③太田与右衛門 390坪
- ④蜂須家録 238坪
- ⑤清野源八 395坪
- ⑥鳥居次郎兵衛 277坪

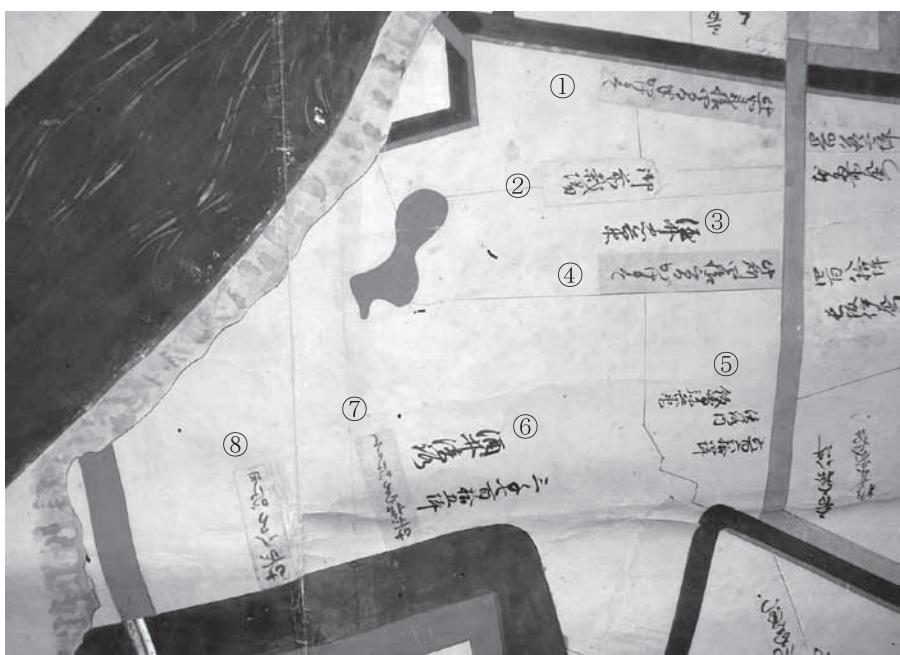


⑩下条曲輪 ⑪御塩硝藏 1380坪 ⑫成瀬伝助 149坪 ⑬佐治勘左衛門

[絵図9]

下条曲輪南側と堀外東

①有馬甚兵衛	310坪
②久保孫太夫	396坪
③増尾孫助	308坪
④原 源内	372坪
⑤本多佐左衛門	150坪
⑥有馬儀兵衛	220坪
⑦吉田藤内	396坪
⑧□□口 (付箋貼付解読不可)	
⑨此間堀40間半	
御門脇より14間半	
指置残取申にてこれあるべ く御座候哉 (付箋)	



[絵図10] 高浜曲輪北側

①此所24間半がけまで	
②御前栽場	
③酒井忠兵衛	
④此所43間がけまで	
⑤淡路内飯島弥兵衛	664坪
⑥酒井淡路	3715坪
⑦此所15間がけまで	
⑧此所8間がけ迄	

[絵図11] 三の丸北側の小曲輪



①石田弥市郎 610坪

②酒井兵庫 1073坪
③弾正抱 105坪

④此通堀28間

⑤松下七太夫 303坪

⑥此間堀34間

⑦熊沢彦右衛門 258坪
⑧葉谷孫三郎 408坪

※水堀東側の5軒は、土居曲輪につき、ここには記載せず。



[絵図12] 土居曲輪北側①

①此所19間欠迄

⑦塚本玄甫 570坪

②御前栽場

⑧八森七兵衛 277坪

③上村三太夫 326坪

⑨芦谷十左衛門 240坪

⑯山家惣左衛門 585坪

④本多所左衛門 487坪 ⑩山田清兵衛 525坪 ⑳茂呂三郎右衛門 250坪

⑯速見九兵衛 540坪

⑤長坂伊左衛門 480坪

⑪針谷新五左衛門 418坪

㉑柴田伊右衛門 550坪

㉑本庄甚五左衛門 587坪

㉒水野五郎兵衛 578坪

㉓梶木藤右衛門 558坪

㉔志賀又左衛門 668坪

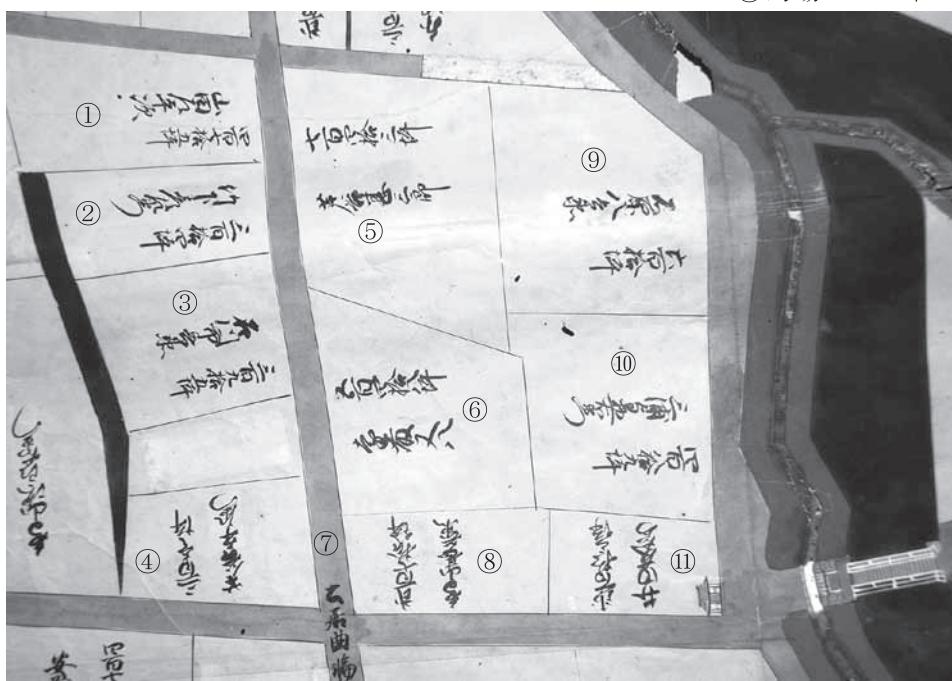
㉕三浦文右衛門 379坪

㉖淡路下屋敷 354坪 ㉗梅田正摘要 393坪 ㉘鳥山次郎右衛門 766坪



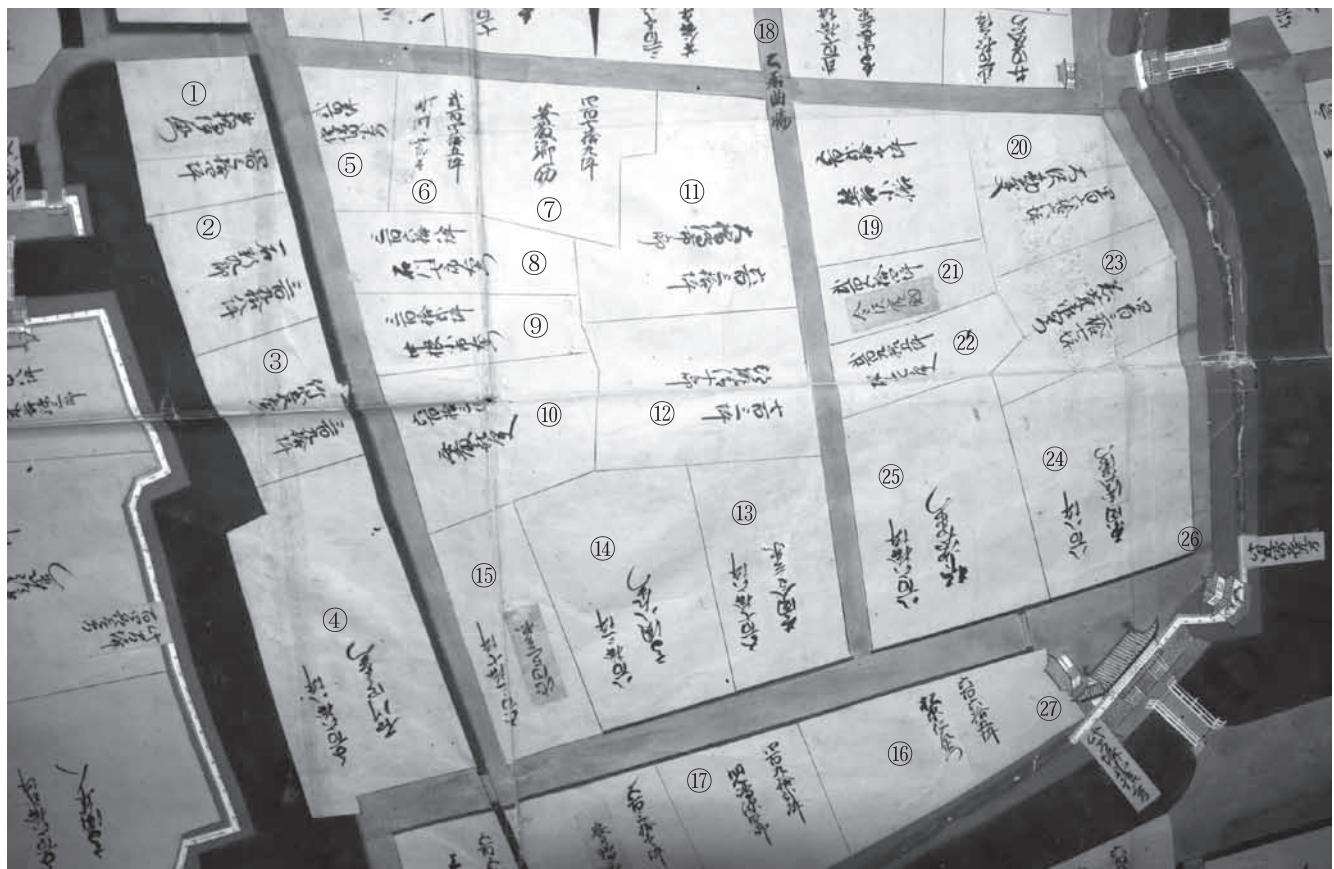
〔繪図13〕 土居曲輪北側②

①一石五左衛門 502坪	②三屋元仲 226坪	⑥柳原口
③柴田源太夫 271坪	④飯嶋伝七郎 265坪	⑨番所
⑤中根市郎兵衛 279坪	⑦的場 296坪	⑧外池十郎左衛門 391坪



〔繪図14〕 土居曲輪北側③

①山田左平次 475坪	⑤芦谷甚三郎 743坪
②竹下彦左衛門 314坪	⑨石原八兵衛 610坪
③石川市兵衛 395坪	⑩三浦与惣右衛門 489坪
④芦谷平左衛門 301坪	⑥遠藤又八 548坪
⑦土居曲輪	⑧鳥山甚兵衛 270坪
⑪井田友右衛門 213坪	



〔絵図15〕 土居曲輪南側



〔絵図16〕水曲輪（加内曲輪）①中心部、土居曲輪南端・車橋門

⑥此間堀23間（車橋門）

②上田左太夫559坪 ③鴛鴦要人531坪 ④児嶋源四郎492坪 ⑤松原仁左衛門665坪

①内藤久米之助1415坪

⑦大谷喜太夫 514坪 ⑧吉岡理介 315坪 ⑨池谷金左衛門 769坪 ⑩折井弥五右衛門 625坪

⑪竹尾助太夫 341坪 ⑫御門番 四郎右衛門27坪

⑬大山兵太夫 839坪

⑭大山兵太夫

⑮大河内一学 1000坪 ⑯矢嶋茂兵衛 339坪

⑰増野才兵衛 357坪

⑰矢嶋弥市右衛門 448坪

⑱芳賀久右衛門 164坪 ⑲坂部助太夫 397坪 ⑳原田四郎左衛門 297坪

㉑飯田見陸 262坪 ㉒沼田弥次兵衛 374坪

㉓三浦七左衛門 213坪 ㉔深瀬甚太夫 138坪 ㉕桐渕安休 118坪

㉖深瀬弥右衛門 545坪 ㉗原田九郎兵衛 405坪

㉘福嶋善兵衛 287坪

㉙太田平三郎 132坪 ㉚亀山辰之助 392坪 ㉛岩嶋六郎兵衛 355坪 ㉜鶴田仁兵衛 406坪

㉚御門番 甚右衛門74坪

㉚関友之助 529坪 ㉚永田武兵衛 819坪

㉛金沢伝左衛門 278坪 ㉜松本源五左衛門 165坪

㉝金沢伝左衛門抱 60坪

㉚此門堀13間

㉚石川口

㉚此間堀2間（門） ㉚此間堀24間

㉚水曲輪口

㉚用水口

㉚4480坪之内

㉚4480坪之内

㉚宇野小右衛門 280坪 ㉚明屋敷 942坪

㉚関十郎太夫264坪

㉚長沢小太夫400坪 ㉚松岡勘右衛門450坪 ㉚町井彦太夫350坪 ㉚中新井柅右衛門310坪



[絵図17] 水曲輪（加内曲輪）②北部、鳴田曲輪

①小川与助 653坪 ②片山志賀右衛門 483坪
 ③秋本清左衛門 304坪 ④赤堀源太夫 484坪

⑤天野九左衛門 376坪 ⑥嶋田曲輪 ⑩中岡市左衛門 350坪
 ⑦宮地加兵衛抱 80坪 ⑧宮地加兵衛 784坪 ⑪高須与一右衛門抱77坪 ⑫根岸弥左衛門250坪
 ⑯此間堀19間 ⑯坪呂岩口 ⑯此間堀18間

⑬天野善十郎 280坪 ⑯西松又左衛門 364坪 ⑯伊田伝兵衛 570坪
 ⑯松平内記 2003坪 ⑯川合田宮 511坪 ⑯○
 ⑯松崎市太夫 311坪 ⑯都筑六左衛門400坪 ⑯西松次左衛門344坪 ⑯松野春庵302坪

⑯此門堀両脇にて9間
 ⑯御門番四郎右衛門 27坪 ⑯此通堀12間（大手門） ⑯此通堀26間
 ⑯竹田一閑 260坪 ⑯高須平兵衛 2041坪 ⑯高須与一右衛門 545坪

⑯大手口 ⑯東
 ⑯御勘定所 486坪 ⑯此通堀29間



〔絵図18〕伯耆曲輪

⑧大手口
⑨此通堀29間
⑤布川佐次右衛門 518坪 ⑥秋生六郎左衛門 379坪 ⑦御勘定所 486坪

①米津源右衛門 697坪

⑩伯耆曲輪

②岩松九右衛門 373坪

③戸倉喜兵衛 526坪 ⑪柴山八十郎 357坪

⑫上村三太夫 332坪 ⑬吉田七郎右衛門 289坪

④尾崎十三郎 282坪

⑭鈴木権右衛門 394坪 ⑮松崎八郎兵衛 368坪

⑯用水口

⑰用水口

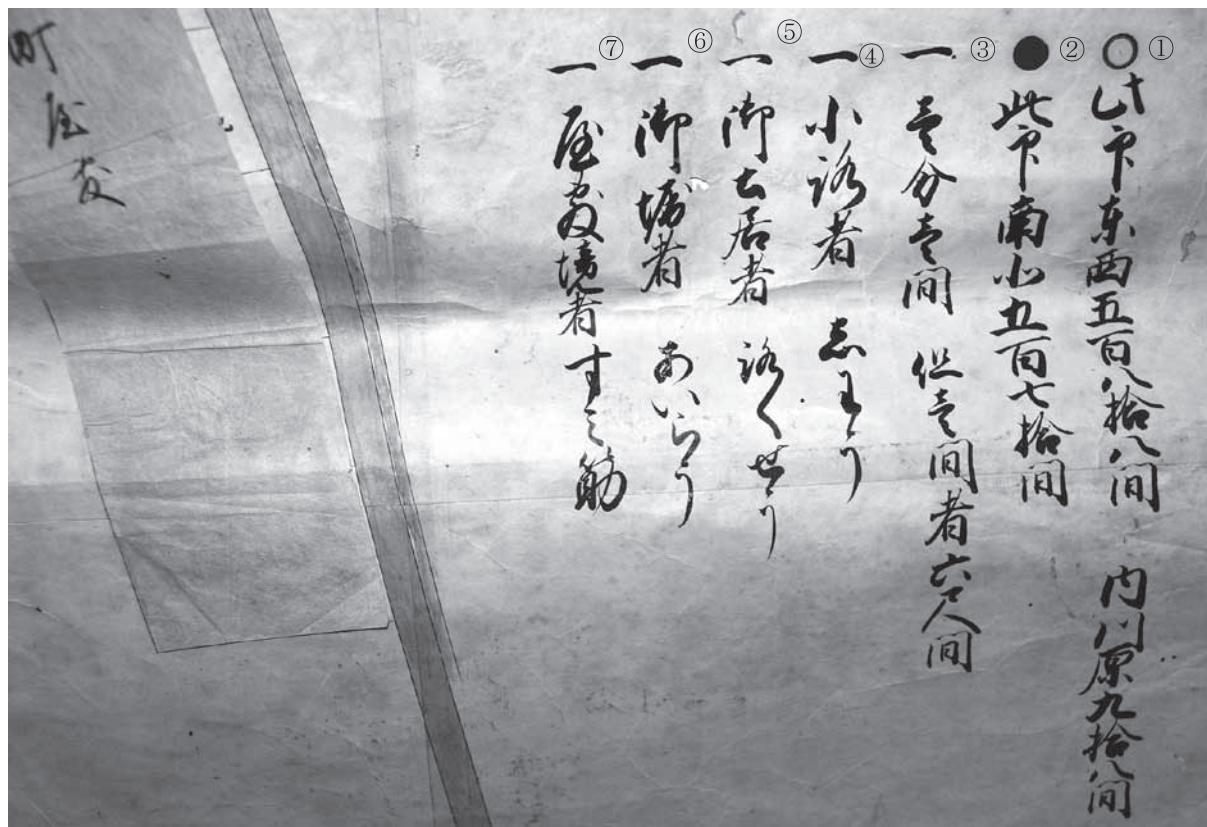


[絵図19] 嶋田曲輪北側堀と広瀬川間

②8 廣瀬川

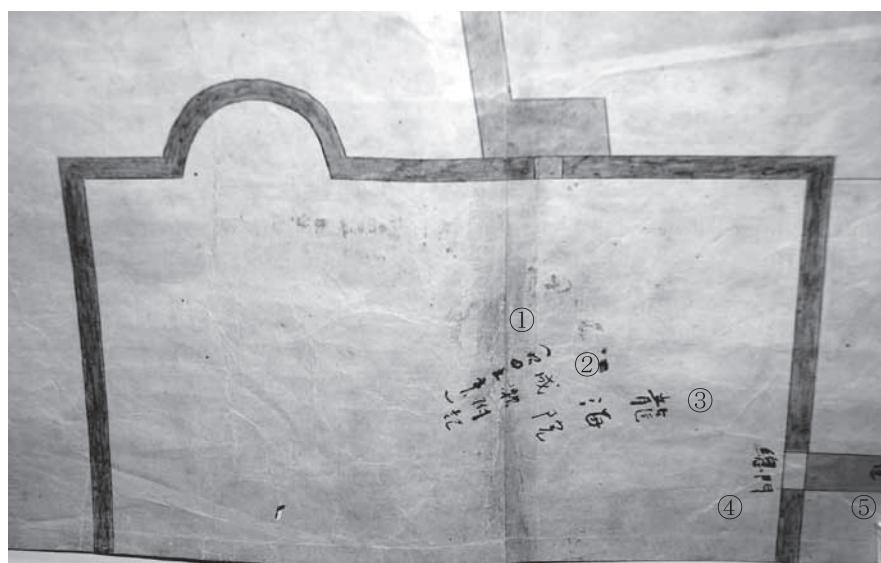
②9 町屋敷

①伊勢之宮	⑯中根治太夫 236坪	㉙町屋敷
②高橋庄吉 194坪	⑰御長屋 209坪 4合	㉗都筑久右衛門 450坪 ㉒成然寺 ㉓本多伊左衛門
③牛込治太夫跡屋敷 423坪	⑲御長屋 280坪	㉘丸橋文右衛門 250坪 ㉙上野佐右衛門 300坪 ㉚奥野庄太夫 300坪 ㉛志賀次郎兵衛 367坪
④福田市太夫 450坪	⑲篠沼彦兵衛 502坪	㉕御長屋 187坪 5合
⑤細井久太夫 300坪	㉚明屋敷 250坪	㉖明屋敷 145坪 9合
⑥上田六郎太夫 500坪	㉛根岸源太左衛門 577坪 5合	㉗石井三之丞 350坪
⑦用水	㉕五十嵐新蔵 400坪	㉘加藤仁左衛門 400坪
⑧坂部三六 86坪	㉖高須七郎太夫 445坪	㉙片山太郎兵衛 688坪
⑨本多六郎兵衛 86坪	㉗光坂團七 99坪	㉚沼田弥兵衛 400坪
⑩阿知和孫助 98坪	㉘岩橋助右衛門 99坪	
⑪岡崎一徳 99坪		
⑫倉本市兵衛 518坪	㉛中村又三郎 435坪	
⑬酒井忠兵衛 612坪	㉕高部屋又四郎 435坪	㉖本多甚五右衛門 515坪
⑭此間瓦塀 38間 内 19間当分破損	㉖吉田孫右衛門 558坪	㉗角南洞庵 314坪 ㉘青木弥惣右衛門 454坪 ㉙岩松弥惣左衛門 451坪 ㉚佐藤又蔵 384坪 ㉛廣瀬三左衛門 379坪 ㉕下町 ㉜大橋角太夫 412坪 ㉝野尻甚五左衛門 468坪



〔絵図20〕凡例（右下部分）

- ①○ 此印東西588間 内川原98間
- ②● 此印南北570間
- ③一 1分1間 但1間は6尺間
- ④一 小路は しわう (雌黃)
- ⑤一 御土居は ろくせう (緑青)
- ⑥一 御堀は あいらう (藍蟬)
- ⑦一 屋敷境は すミ筋 (墨筋)



〔絵図21〕龍海院（真下部分）

- ① (次四五事力)
- ②成瀬附記
- ③龍海院
- ④総門
- ⑤参道